IIBC Essay Contest

第16回 IIBC高校生英語エッセイコンテスト

テーマ

つながる心、広がる世界
～コミュニケーションを通じた響きあい～

異なる価値観、異なるバックグラウンドを持つ人との交流は、自分自身の価値観や考え方を認識する良い機会です。

自分は何を大切にしていて、何に価値を置いているのか？それらは自分と異なる人と触れ合うことで、気づかされるとともに、その経験を通して、それまで見えなかった世界、知らなかった世界が見えてくることでしょう。

コミュニケーションを通じて心と心が響きあうことで世界は広がっていく。
それは、同時にあなたの未来の可能性を広げることにつながります。

私たちは、学生の皆さんに、異なる価値観を持つ人との交流から得た気づきや変化を、相手に生まれたであろう変化も含めて英語で表現していただきたい、そんな思いから「IIBC高校生英語エッセイコンテスト」を開催いたします。

トピックやエピソードは、海外や国内の枠にとらわれることなく身近なことで構いません。母語以外の言語である英語で伝えることが、皆さんにとってさらに新しい気づきや力を得る機会となることを願い、本コンテストへのご参加をお待ちしています。

主 催 一般財団法人 国際ビジネスコミュニケーション協会（IIBC）

後 援 文部科学省、米国大使館

協 賛 一般社団法人 日米協会

特別インタビュー

- 芦屋学園高等学校　田 哲 さん（第15回 最優秀賞・日米協会会長賞 受賞）
- 名城大学附属高等学校　若山 舞衣 さん（第15回 特別賞 受賞）
- 名城大学附属高等学校　荻島 望 先生（第15回 特別賞・奨励賞受賞 指導教員）
- 審査員（桜美林大学名誉教授 異文化経営学会会長）　馬越 恵美子 先生

応募規定

昨年度からの変更点を青字で表記していますので、ご確認ください。

応募資格

以下を満たしていること

- 英語が母語でないこと
- 所在地が日本国内の、「国公私立高等学校・高等専門学校（1～3年）」、または「中等教育学校（4～6年）」に在学していること

※上記条件に準ずる教育施設として、在外教育施設による応募を認める場合があります。

応募部門

「個人」、「団体」の2部門があります。両方の部門に応募可能です。
生徒1名につき1作品とし、学校単位でご応募ください。

個人部門

- 1校あたり3作品まで応募可能です。校内選考の実施は各学校のご判断にお任せします。
- 一次審査、最終審査の結果、優れた作品に以下の賞を授与します。
  最優秀賞（1名）／優秀賞（1名）／優良賞（1名）／特別賞（5名）／日米協会会長賞（3名）※1／アルムナイ特別賞（1名）※2
  ※1 一般社団法人日米協会（会長：藤崎 一郎氏）が、国際理解や国際交流の観点で優れた作品を選定
  ※2 過去の受賞者（アルムナイ）が審査員となり、独自の観点で優れた作品を選定
- 受賞作品については、公式サイト内での発表、当方資料ならびに報道発表資料として利用させていただくため、生徒様の氏名、学年をお伺いいたします。ご応募にあたり予めご了承ください。

団体部門

- 1校あたり20作品（20名）以上にて応募可能となります。個人部門への応募作品は、この数に含みません。
- 団体部門にご応募されたすべての学校に「奨励賞」が贈られます。

応募作品に関する要件

作品は、以下を満たしていること

- 使用言語：英語　・語数：500～700語
- 書式：公式サイト上の「応募規定」ページ内書式見本に従ってください。
  ※右記URLまたは二次元バーコードよりアクセス
- 提出形式：Wordファイル

https://iibc.me/essay_format

注意

- タイトル・カンマ・ピリオドは語数に入れません。
- エッセイ内で他者作成の文章の引用が必要な場合は、引用箇所に印をつけ、必ず引用元を記載してください。引用元についての記載は、規定の語数には含まれません。
- 手書きのものは受け付けません。
- 以下のいずれかに該当する作品の応募は認めません。
  語数オーバー、語数不足のもの／自作未発表でないもの／翻訳ソフトを使用したもの／AIチャットサービス（例：Chat GPTなど）を使用したもの

応募期間

2024年5月30日（木）10：00～9月10日（火）15:00締切　※締切時間が変更になりました。ご注意ください。

応募方法・手順

- 以下の手順に沿って、右記URL または二次元バーコードから「IIBC高校生英語エッセイコンテスト」ページにアクセスして専用応募フォームよりご応募ください。
  https://iibc.me/essay

※通信障害等により、個人情報および応募作品を紛失された場合の責任は負いかねますのでご了承ください。

個人部門

【個人部門応募用】フォームに必要事項を入力し、エッセイ作品（Wordファイル）を添付し、送信してください。
1校あたり3作品までご応募いただけます。複数作品を送信する場合、一回の手続きで全てのファイルを添付してください。

団体部門

①**全てのエッセイ作品（Wordファイル）のファイル名に連番をつけて**ください。
例）〇〇高校-01.doc、〇〇高校-02.doc
②**連番をつけた全てのWordファイルを圧縮して1つのファイルを作成**してください。
ファイルの圧縮形式はZIP形式またはLHA形式としてください。圧縮したファイルの容量が10MB以上になる場合は、IIBC高校生英語エッセイコンテスト事務局までお問い合わせください。
③公式サイトの**【団体部門応募用】フォームに必要事項を入力し**、②の圧縮したファイルを添付し、送信してください。
応募フォームへ入力した「参加人数」と、送付するエッセイの数が同数であることを必ず確認の上、圧縮、送信してください。

審査	個人部門への応募作品は以下の審査を行い、受賞作品を選定します。 **一次審査** IIBC高校生英語エッセイコンテスト事務局による審査 **最終審査** 最終審査員による、一次審査通過作品の審査 **内容・構成・表現力・文法/語彙などを総合的に評価します。** **審査時には、学校名・生徒氏名は除き、エッセイ本文のみを評価します。**
審査結果発表・表彰式	**2024年10月下旬以降、公式サイトにて入賞者および入賞作品を発表します。** **発表前に、ご応募いただいた指導教員のメールアドレス宛に入賞者を通知し、後日、表彰式の日程をお知らせします。** **受賞者ご本人並びに指導教員を（合計3名まで）表彰式へご招待いたします。**
賞品・記念品	**個人部門** ・受賞者全員に表彰状、トロフィー（日米協会会長賞はメダル）を贈呈します。 ・最優秀賞、優秀賞、優良賞の受賞者に副賞としてノートPCを贈呈します。 **個人部門・団体部門** ・個人部門の受賞者とその指導教員、および団体部門の奨励賞受賞校にオープンバッジ（デジタル証明書）を贈呈します。 ・すべての応募作品に英文ライティングのネイティブ講師によるコメントをフィードバックします。（応募要件を満たしていないものは除きます）フィードバックをつけたエッセイは、11月下旬以降にご応募いただいたメールアドレス宛にお送りいたします。 オープンバッジ
入賞したエッセイの利用について	**入賞したエッセイは、当協会の公式サイトやプレスリリースに掲載させていただきます。予めご了承ください。**
問い合わせ先	**（一財）国際ビジネスコミュニケーション協会　IIBC高校生英語エッセイコンテスト事務局** **お問い合わせ：https://iibc.me/contests_inquiry** 本コンテストに関わる情報は、随時公式サイト（ https://iibc.me/essay ）にてお知らせします。

個人情報の取扱いについて

- **個人情報の取得と利用目的について**
  ご提出いただくエッセイ及びご担当者様の個人情報は、コンテストの運営、入賞作品の通知及び表彰式等に関するご連絡、表彰状・賞品送付、当協会の発行物、公式サイトへの掲載ならびに報道発表資料に利用いたします。また、次年度のIIBC高校生英語エッセイコンテストに関連するご案内、IIBCが主催・協賛・後援するイベント・TOEIC Program各種テスト関連のご案内、前述の目的達成のための電話・メール・FAX・郵便による連絡に利用いたします。

- **個人情報の第三者提供・委託について**
  取得した個人情報は、ご本人の同意をいただいた範囲内においてのみ取り扱うこととし、法令で定める場合を除き第三者に提供・開示いたしません。なお、取得した個人情報は、上記利用目的のために契約を締結した委託先に預託します。インターネットのシステム障害やメールアドレスの誤り、郵便事故などにより、個人情報および応募作品を紛失された場合の責任は負いかねますのでご了承ください。

- **個人情報に関するお問い合わせについて**
  個人情報の利用目的の通知、開示、訂正、追加、削除、利用の停止、消去等または第三者への提供の停止、第三者提供記録の開示を希望される場合は、下記へお問い合わせください。IIBC高校生英語エッセイコンテスト事務局　iibc-contests@iibc-global.org

- **提供の任意性**
  個人情報のご提出は任意ですが、当協会が必須として指定した情報をご提供いただけない場合は、本コンテストへご参加することができかねますのでご了承ください。

上記の個人情報の取扱いに同意の上、ご応募くださいますようお願いいたします。個人情報保護管理者：一般財団法人 国際ビジネスコミュニケーション協会　常務理事

「留学先での交流から芽生えた“世界の架け橋”になるという夢をエッセイにしました」
第15回（2023年）で最優秀賞・日米協会会長賞を同時受賞した田さんにお話をうかがいました。

第15回（2023年）
最優秀賞・日米協会会長賞 受賞
芦屋学園高等学校（兵庫県）
田 哲 さん

── 今回のエッセイのトピックを選んだ理由を教えてください。

2023年の夏に高校のプロジェクトの一環でカナダへ短期留学しました。ホストファーザーと会話をする中で、僕の母国である東洋の文化や価値観を伝えて理解してもらえたことに大きな喜びを感じました。それまで僕は、自分に日本と韓国と中国という3か国の血が入っていることに対して「自分は何人なんだろう」と苦しんでいました。しかしホストファーザーとの交流を通じて、自身の背景にある3か国の文化を、遠く離れた異文化の人に伝えることができる喜びを感じることができました。このことは僕にとって人生の大きなターニングポイントとなったので、この経験を書こうと思いました。

── どのようなプロセスで書き進めましたか？

ホームステイ中はホストファミリーとたくさん話して英語力を高めたいと思っていたので、積極的にコミュニケーションをとり、その日の会話で印象的だったことを日記に書いていました。それは日本語で書いていたのですが、あらためて記録していると、自分の悩みに対してホストファーザーが的確な答えを与えてくれていることに気が付いたのです。これこそが「国境なきコミュニケーションだ」と思い、エッセイにまとめて、IIBC高校生英語エッセイコンテストに再び応募しようと思いつきました（※2022年に初めて応募し、特別賞を受賞）。帰国する前にエッセイの内容と起承転結はある程度できあがっていました。「A Global Catalyst」というタイトルは、「世界の架け橋」という意味でつけました。今回の体験を機に、母国の伝統文化を世界の人々に広める役割を担いたいと思ったからです。Catalystは「触媒」という意味ですが、Catalystという単語は父が仕事の関係でよく口にするので僕にとっては馴染みがあることと、少し変わった表現になって面白いのではないかと思いました。

── 英語でエッセイを書く中で、気付いたことや学んだことはありますか？

日本語や韓国語といった自分の母国語なら書きたいことを自由自在に表現できるのに、英語となると難しいです。「あの感覚や感情をどう表現したらよいのだろうか」と試行錯誤しました。それで気付いたことは、日本語の文章をもとに英語に置き換えていくと、自分の感情をそのままに伝えることが難しいということです。日本語の場合は直接的な表現よりも少し遠回しな表現の方がよいとされていますが、英語の場合はいかにダイレクトに表現できるかが鍵となるからです。今後エッセイを書くときは、日本語脳と英語脳をはっきり切り替えることが必要だと思いました。

── 受賞を知ったときのお気持ちは？ また、2年連続で表彰式に参加されていかがでしたか？

担任の先生から受賞を聞いたときは、隣にいた友人と抱き合って喜びました。表彰式では同じテーマでエッセイを書いて高い評価を受けた他の受賞者と会うことに少し緊張もしましたが、喜ばしくもありました。親睦会では、みんなでエッセイに書いた内容を教え合ったり、体験談を話したりし、共感できることや学ぶことが多く、とても楽しかったです。

── 英語のライティングに関して、どのような勉強をされていますか？

僕は書きたい内容がたくさんあるので、あれもこれもと思ってしまい、簡潔にまとめることが苦手です。まとめる力をつけるために、読み手を想定して書くようにしています。子どもが読むのか、生徒や先生が読むのか、といったことを意識すると、何を書くかの取捨選択ができるようになります。また、英字新聞を読み、大事だと思った一文にマーカーで印をつけ、そのマーカーを引いた部分だけを抽出して英文にまとめなおす練習もしています。時々ですが、BBCニュースを聞いて感想を英語で書く練習もしています。

── これから本コンテストに挑戦する高校生に向けて、アドバイスをお願いします。

エッセイを書くときは日本語脳と英語脳で切り分けた方がよい、と言いましたが、最初からそれは難しいので、まずは自分の言いたいことを日本語でも英語でもかまわないのでシンプルに書きだしてみましょう。伝えたい要素が明確になったら、それを表現するのにふさわしい英語を探して、英文にしていきます。簡潔で洗練された表現を心がけるとよいと思います。

── 将来の夢や目標を教えてください。

将来はユネスコに入って、僕の母国である日中韓の世界遺産の魅力を世界各地からの観光客に知ってもらうような活動をしたいです。もともと歴史が好きということもありますが、趣味の一環として、世界遺産検定も受験しています。

※田さんのエッセイはこちら：www.iibc-global.org/iibc/activity/essay/2023_result.html （取材日：2024年2月）

「身近な異文化に着目して、自分が体験したことや感じたことを書きました」第15回（2023年）で特別賞を受賞した若山さんにお話をうかがいました。

第15回（2023年）
特別賞 受賞
名城大学附属高等学校（愛知県）
若山 舞衣 さん

── 応募のきっかけと、エッセイの題材にクラシック音楽を選んだ理由を教えてください。

コンテストに応募するエッセイを書くことは、高校の夏休みの課題でした。それまで英語で文章を書いたことがなかったので、何から手をつければよいのかわかりませんでした。「身近な異文化体験～コミュニケーションを通じた響きあい～」というテーマについては、海外での経験を書くものと思い込んでいたので、海外留学の経験もなく海外旅行に行ったこともない私にとっては、「異文化」というのは遠い存在といいますか、少しハードルが高いように感じました。そこで「身近な」ところに何か題材がないかと生活を振り返ってみたところ、自分にとってクラシック音楽が身近な異文化であるということに気付きました。私はピアノを習っていて、クラシックコンサートにも何回か行きました。その中で特に印象に残っていたのがロシアのクラシック音楽のピアニスト、ニコライ・ホジャイノフのリサイタルだったので、そこでの異文化体験や考えたことについて書こうと決めました。

── どのようにして書き進めましたか？

まずは自分がコンサートで見たもの聴いたもの、そして伝えたいものを日本語で書き出しました。それを英文に直していきましたが、夏休み中の課題だったので誰かに教わることもなく、自分が知っている範囲の簡単な英語を当てはめていきました。

── 完成させるまでのプロセスで、特に難しかったことは何ですか？

難しいと感じたのは、日本語でなら伝えたいことをすぐに書けるのに、英語にすると簡単にはいかないということです。この動詞では言いたいことが伝わらないのではないか、少し違うのではないか、と迷うことが多かったです。そういう時は、自分の言いたいことに少しでも近い言葉を探しながら、試行錯誤して書きました。ぴったりだと思える表現が見つかったときは嬉しかったです。

── 自分の体験を文章にしてみると、新たな気付きが得られることがあると思います。今回、エッセイに取り組んだことで、気付いたことはありましたか？

音楽家の中にはロシア人も多いのですが、ウクライナで起きていることを悲しんでる人も多いんだなということを感じました。コンサートでは、当事者だからこそ出せる音というものがあり、その音が多くの観客の心を動かす様子を目の当たりにしました。そういったことを思い出し、英語で読み手に伝わるように書く工夫をしました。

── 日頃の勉強の中で、英語は得意な方ですか？

いいえ、あまり得意ではありません。英語のテストでは通常、その時々で習った単語や英語表現を使わないといけないので、難しく感じてしまうことがあります。ただ、今回のエッセイのように自由に書いてよいのであれば、自分のわかる範囲の単語を使うことができるので、なんとか書けるかもしれないと思いました。

── 特別賞受賞を知ったときはどのようなお気持ちでしたか？

信じられなかったです。海外に行ったことがないうえに英語力にも自信がない私が選ばれるわけがないと思っていたので、本当に驚きました。

── 表彰式に参加された感想は？

表彰式では審査員の方々が英語で講評をくださいましたが、私には英語の意味がよく理解できなかった部分もありました。「他の参加者の方々は理解できているのだろうな。わかっていないのは私だけだろうな」と少し心配になりました。親睦会では他の受賞者の方々と交流できて楽しかったです。

── これから本コンテストに挑戦する高校生に向けて、アドバイスをお願いします。

難しい単語や表現を無理に使おうとせず、自分の英語力に合った文章でよいので、自分が伝えたいことを書いてみてほしいです。何を伝えたいのか、ということが大事だと思います。

── 若山さんご自身は今回の受賞で英語力に自信がついたのではないかと思いますが、これからの英語学習の目標などがあれば教えてください。

先ほど「自分がわかる簡単な英語でよい」と言いましたが、この先、大学に進学したり社会に出たりすると、より高いレベルの英語力が必要になる場面が出てくるように思います。ですので、これからは英語の語彙を増やしていきたいなと思います。今回エッセイに挑戦してみて、もっと英語の勉強をしないといけないということを再認識させられました。

── 将来の夢やチャレンジしたいことを教えてください。

お笑い番組が好きなので、将来はテレビディレクターになりたいです。高校では放送部に入っていて、動画の編集の仕方を学んでいるところです。ディレクターになったら、バラエティー番組やドキュメンタリー番組を作ったり、海外に行って密着ドキュメントを撮ったりしたいです。そのときのためにも、英語は勉強しておこうと思います。

※若山さんのエッセイはこちら：www.iibc-global.org/iibc/activity/essay/2023_result.html （取材日：2024年2月）

「異文化とは何かを考える良い機会となりました。」
特別賞受賞の若山さんを指導した荻島先生にお話をうかがいました。

名城大学附属高等学校（愛知県）
荻島 望　先生

── 先生は本選と奨励賞へご応募されていますが、エッセイを夏休みの課題にした理由を教えてください。

私は現在、特進クラスを受け持っていて、今回のIIBC高校生英語エッセイコンテストへの応募は「英語コミュニケーション1」という授業内の課題にしています。前任の先生方が過去に応募していたことを知り、私は特進4クラス全てを担当しているので、今年は全クラスで応募するチャンスだと思いました。また、生徒たちに自分の力で英語の文章を書いてみるという経験をしてほしい、ということも大きな理由です。

── では、応募作品に関して、単語や文法のチェックはあまりされていないのでしょうか。

夏休みの宿題なので、文法などの手直しはしていません。夏休み前に課題をだして、夏休み明けにそのまま応募しています。特進クラス151名が提出しましたが、その中には「この生徒には厳しい課題だろう」と思っていた生徒もいました。しかし、そんな生徒が知っている単語を絞り出して頑張って書いてきたものを見たとき、「よく書いてきたね」と涙が出そうになりました。

── 貴校は2017年から応募してくださっていますが、若山さんが初めての受賞者です。先生のお気持ちは？

これまで本校の生徒から受賞者はいないということは知っていましたし、先ほども申し上げたようにエッセイの添削をしていないので、まずは驚きました。本校は理系の生徒が多く、特進クラスでも英語に苦手意識を持っている生徒が少なくありません。若山さんも「英語は得意ではない」と話していましたが地道に頑張っている生徒です。だからこそ、彼女の受賞が本当に嬉しいです。

── 本選（審査有り）に応募できるのは1校2作品までになりますが、151作品の中から若山さんのエッセイを選んだ決め手を教えてください。

私が全員のエッセイに目を通し、本選応募用に2作品を選びました。正直に言いますと、若山さんよりも英語力の高い生徒はいましたが、それ以上に内容が面白いという点を重視しました。音楽という身近なものに焦点を当てて、異文化として話題を展開していくという発想が素晴らしいと思いました。よく「音楽に国境は関係ない」と言いますが、彼女のエッセイを読んで改めてそう感じることができました。

── 若山さんのエッセイが特別賞に選ばれた理由について、荻島先生はどうお考えですか？

先にも述べたように着眼点が面白いということと、何でも書いて覚えたり、常に情報を書き出して整理しようとする若山さんの努力が実ったのだと思います。先日の表彰式の際、皆さんの前で話すときにも、若山さんは話したいことを紙に1回書き出して、そこから何を中心に話をするのかをまとめていました。彼女は日頃の授業でも英語に限らず何でも書いて覚えようとしていて、彼女の手元には常にたくさんのメモ書きがあるのですが、それが彼女の学習方法であり、その地道な努力、情報をまとめる能力が今回の受賞に結び付いた理由のひとつだと思います。

── 生徒のライティング力を向上させるために、日頃の授業で何か行っていることがあれば教えてください。

私が受け持っている英語コミュニケーションの授業では、テーマに関する動画を生徒に見てもらい、メモをとらせ、どのような内容だったのかをペアになって話したり聞いたりしてもらいます。さらにプレゼンの基本構造を学び、関連したテーマに沿って自分が知っている単語でよいので英語で原稿を書き、クラスのみんなの前に立って1分30秒間のプレゼンをしてもらいます。グループプレゼンを含め、1年間で5回くらいはプレゼンをする機会がありますが、このプレゼンの土台となる英文の構成はエッセイにも応用できるものです。一年間に渡り、スピーチ原稿を自分で作るという作業がライティング能力の向上につながっているのではないかと思います。

── 最後に、コンテストへの参加を検討されている他校の先生方にメッセージをお願いします。

今回の受賞については、生徒本人の努力の賜物です。私は応募のきっかけを作っただけです。ただ、これまでの経験を通じて気付いたことは、先生が生徒のレベルを勝手に決めてはいけないということです。これまで私は何校かの高校に勤務してきましたが、先生側が「この子たちには難し過ぎる」などと考えてしまい、このようなコンテスト応募のスタートラインにすら立てなかったということがありました。英語の成績が良いからといって必ずしも良いエッセイを書けるわけではなく、反対に英語の成績が悪いからといって良いエッセイを書けないわけではないのです。今回、大勢の生徒のエッセイを読みましたが、「この生徒はこういう文章を書くんだな」という発見が楽しく、また、ふだんの授業やテストだけではわからない、自分の言葉で表現する力を知ることができました。生徒も先生も多くの気付きを得られるコンテストです。ご興味があればとにかく挑戦されることをおすすめします。

（取材日：2024年2月）

「自分の中から湧き上がるものを相手に伝わるように書くことが大事です」
第1回より審査員を務める桜美林大学名誉教授の馬越恵美子先生にお話をうかがいました。

── 本コンテストの印象を教えてください。

これまで少しずつテーマが変更されてきましたが、「異文化」というキーになるテーマを変えずに続けていることが素晴らしいですね。受賞者だけでなく参加した生徒の多くがこれを機に成長して社会に出ていきますので、社会貢献のひとつにもなっているのではないかな、と思います。また、エッセイを書くということは、地味な作業です。スピーチの場合は話し方や身振り手振りなども含めて表現することができますが、ライティングの場合はそうはいきません。ただそこに書いてある内容だけで勝負する。書き手の体験に基づいたオリジナリティのあるストーリーなのか、そこに書き手の意見があるのか、そういったことが問われるので、ごまかしがききません。厳しいからこそ、エッセイコンテストには大きな価値があると思います。

── 審査をする際に大切にしているポイントを教えてください。

私の場合は、細かい文法はチェックせずに一気に読んで、「面白かった」と思ったものが良いエッセイです。文法に関しては、大きく間違えていたら読んでいるときにそこで引っかかってしまいます。つまり、最初から最後まで一気に違和感なく読めるということは、文法にさほど問題がないのだと思います。構成でいうと、最初の一行目はとても大事ですね。引き込まれる文章かどうか。そして、オチがわからずに読みすすめられるかどうか。「どこかで読んだことあるな」と思わせない独自の内容であることも大事です。さらに、エッセイで書き手が自分の人生を表現豊かに語っているかどうか、も重視しています。

── 第1回から審査をされてきて、高校生のエッセイの内容に変化はありましたか？

内容の幅が広く深くなってきたように思います。例えば、これまで宗教の話が出てくるエッセイはなかったように記憶していますが、最近ではキリスト教やイスラム教について触れている作品がいくつかみられました。話題の幅が広がったことに関しては中学生や高校生の海外留学が増えたことなどもあるかと思いますが、渡航経験のあるなしに関わらず、現在はインターネットで多くの情報を入手できるので、トピックの内容について深く掘り下げて考えられるようになったのではないでしょうか。

── 高校生が英語でエッセイを書くことの意義を教えてください。

高校生の時期というのは感度がマックスになっているので、さまざまな事柄が鮮烈に印象に残ります。その時期にしか得られない体験や考え、気持ちを文章に書いて伝えるということはとても意味のあることではないでしょうか。エッセイコンテストでいえば、テーマに合うトピックを探すことから始めますが、ユニークなトピックを見つけるには日常的にアンテナを張り巡らせて感度を鋭くして情報をキャッチしなければなりません。いろいろなことに好奇心を持ち、わからないことがあれば聞いてみる、といった習慣を身につけることに役立ちます。もうひとつ、エッセイを書くということは、日記とは違うので、独りよがりの文章になってはいけません。自分の中から湧き上がることを相手に伝わるように書く、というトレーニングになります。「相手に伝わるように」というのはコミュニケーションの核となるものですから、エッセイを書くということは話す能力を伸ばすことにも役立ちます。

── 高校生のうちに英語力を身につけることは、なぜ重要だと思われますか？

高校生の間に英語に対する苦手意識を持たず普通に会話ができるレベルの英語力を身につけることが大切だと思います。最近ではパソコンやスマホを使えないと不便なのと同じで、英語ができないと不便になりました。英語はパソコンやスマホと同じ、ひとつのツールなんです。そして何よりも、英語を勉強するということは異文化を知るということなので、視野を広げることにつながります。何か伝えたいと思った時に日本語しかできなければ日本の人にしか発信できませんが、英語ができれば世界中の人に発信ができます。世界が広がりますし、より人生を楽しめるようになると思います。

── 本コンテストに参加する高校生にメッセージをお願いします。

自分の可能性を信じて、自信を持って人生を歩んでほしいです。エッセイコンテストへの参加が、その助けになるのではないでしょうか。また、私自身は人生において人との縁がとても大事だと思っているので、本コンテストに参加することで生まれた先生との縁や、受賞者であれば表彰式に参加して出会った同年代の人々との縁などを、これからの人生に生かして、良い縁をつないでいっていただきたいですね。

（取材日：2023年1月）

2023年度実績

■ 応募作品数

本選部門※：230作品（153校）　奨励賞部門※：2,443作品（43校）

※2023年度受賞作品の内容は、公式サイトに掲載しております。
※2024年度より、応募部門名を「本選部門」を「個人部門」、「奨励賞部門」を「団体部門」に変更いたします。

https://iibc.me/2023_result

■ 参加校一覧

北海道・東北	札幌聖心女子学院高等学校 / 北海道札幌国際情報高等学校 / 北海道登別明日中等教育学校 / 岩手県立花巻北高等学校 / 盛岡白百合学園高等学校 / 宮城県仙台南高等学校 / 山形県立山形西高等学校 / 山形県立山形東高等学校 / 福島県立郡山高等学校
関東・甲信越	茨城県立下妻第一高等学校 / 水城高等学校 / 私立幸福の科学学園高等学校 / 伊勢崎市立四ツ葉学園中等教育学校 / さいたま市立大宮国際中等教育学校 / 本庄東高等学校 / 埼玉県立春日部女子高校 / クラーク記念国際高等学校千葉キャンパス / 市川高校 / 秀明八千代高等学校 / 渋谷教育学園幕張高等学校 / 東邦大学付属東邦高校 / クラーク記念国際高等学校 / 多摩大学附属聖ヶ丘高等学校 / ドルトン東京学園高等部 / 海城中学高等学校 / 開成高等学校 / 関東国際高等学校 / 吉祥女子中学・高等学校 / 工学院大学附属高等学校 / 広尾学園高等学校 / 広尾学園小石川中学校・高等学校 / 晃華学園中学校高等学校 / 江戸川女子高等学校 / 国際基督教大学高等学校 / 国本女子高等学校 / 桜美林高等学校 / 三田国際学園高等学校 / 私立三輪田学園高等学校 / 私立成蹊高等学校 / 私立富士見丘高等学校 / 十文字高等学校 / 渋谷教育学園渋谷高等学校 / 成女高等学校 / 聖心女子学院高等科 / 大妻多摩高等学校 / 大妻中野中学校・高等学校 / 東海大学菅生高等学校 / 東京音楽大学付属高校 / 東京学芸大学附属国際中等教育学校 / 東京成徳大学高等学校 / 東京中華学校 / 東京都立国際高等学校 / 東京都立三鷹中等教育学校 / 東京都立産業技術高等専門学校　荒川キャンパス / 東京都立雪谷高等学校 / 東京都立日比谷高等学校 / 東京都立飛鳥高等学校 / 八王子学園八王子高等学校 / 八王子実践高等学校 / 品川翔英高等学校 / 武蔵高等学校中学校 / 宝仙学園高校学校 / 明治大学付属明治高等学校 / 立教池袋高等学校 / 獨協高校 / 頌栄女子学院高等学校 / カリタス女子高等学校 / 横浜市立横浜商業高等学校国際学科 / 横浜中華学院 / 横浜雙葉高等学校 / 鎌倉女学院高等学校 / 関東学院六浦中学校・高等学校 / 慶應義塾湘南藤沢高等部 / 湘南白百合学園高等学校 / 神奈川県立愛川高等学校 / 神奈川県立大和高等学校 / 清泉女学院高等学校 / 聖ヨゼフ学園高等学校 / 新潟市立万代高等学校 / 山梨県立甲府東高等学校 / UWC ISAK Japan / 長野県屋代高等学校 / 長野県長野西高等学校
東海・北陸	富山国際大学付属高等学校 / 岐阜県立長良高等学校 / 岐阜工業高等専門学校 / 啓晴高等学校 / 中京高等学校 / 静岡県立焼津中央高等学校 / 静岡県立清流館高等学校 / 静岡県立浜松工業高等学校 / 磐田東中学校・高等学校 / 不二聖心女子学院高等学校 / 愛知県立津島東高等学校 / 愛知県立豊田北高等学校 / 学校法人　平山学園　清林館高等学校 / 至学館高等学校 / 専修学校クラーク高等学院名古屋校 / 東海学園高等学校 / 東海高等学校 / 南山高等学校　男子部 / 豊川高等学校 / 名古屋経済大学市邨高等学校 / 名古屋市立北高等学校 / 名城大学附属高等学校 / セントヨゼフ女子学園高等学校中学校 / 三重県立久居高等学校 / 三重県立津西高等学校 / 津田学園高等学校（六年制）
近畿	クラーク記念国際高等学校京都キャンパス / 京都市立紫野高等学校 / 京都市立西京高等学校 / 京都市立日吉ケ丘高等学校 / 京都市立堀川高等学校 / 東山高等学校 / 同志社国際高等学校 / コリア国際学園高等部 / 学校法人　大阪学芸高等学校 / 関西学院千里国際高等部 / 高槻高等学校 / 四条畷学園高等学校 / 私立清教学園高等学校 / 城南学園高等学校 / 専修学校クラーク高等学院 / 専修学校クラーク高等学院（大阪梅田校） / 大阪教育大学附属高等学校平野校舎 / 大阪私立清風南海高等学校 / 大阪府立三島高等学校 / 大阪府立大阪ビジネスフロンティア高等学校 / 芦屋学園高等学校 / 関西学院高等部 / 私立灘高等学校 / 神戸国際高等学校 / 神戸市立葺合高等学校 / 神戸女学院高等学部 / 神戸大学附属中等教育学校 / 武庫川女子大学附属高等学校 / 兵庫県立長田高等学校 / 西大和学園中学校・高等学校 / 奈良学園登美ヶ丘高等学校 / 奈良県立国際高等高校 / 和歌山県立向陽高等学校
中国・四国	岡山学芸館高等学校 / 岡山龍谷高等学校 / 私立明誠学院高等学校 / 安田女子中学高等学校 / 呉市立呉高等学校 / 広島県立府中高等学校 / 広島女学院高校 / 武田高等学校 / 山口県立大津緑洋高等学校 / 徳島県立城西高等学校神山校 / 徳島県立徳島北高等学校 / 香川県立小豆島中央高等学校 / 愛媛県立松山中央高等学校
九州・沖縄	東京国際ビジネスカレッジ福岡校 / 福岡県立筑紫丘高等学校 / 活水高等学校 / 長崎県立長崎明誠高等学校 / 長崎県立諫早高等学校 / 長崎市立長崎商業高等学校 / 熊本県立熊本北高等学校 / 八代白百合学園高等学校 / 宮崎県立日向高等学校 / 学校法人角川ドワンゴ学園　N高等学校・S高等学校
海外	上海日本人学校高等部 / 早稲田渋谷シンガポール校

IIBC　あなたが世界をつなぐ　あなたと世界をつなぐ
一般財団法人 国際ビジネスコミュニケーション協会
The Institute for International Business Communication

IIBC高校生英語エッセイコンテスト事務局
IIBC高校生英語エッセイコンテスト公式サイト：https://iibc.me/essay

ETS, the ETS logo, PROPELL, TOEIC and TOEIC BRIDGE are registered trademarks of ETS, Princeton, New Jersey, USA, and used in Japan under license. Portions are copyrighted by ETS and used with permission.
Copyright © The Institute for International Business Communication (IIBC). All rights reserved.